

## 福祉常任委員会懇談会報告書

### 1 開催日時

令和6年10月7日（月）午後1時30分～午後3時

### 2 会場

八千代市役所4階 第2委員会室

### 3 出席者

(1) やちよケアマネ・ネットワーク

会長1名，副会長2名，役員7名

(2) 八千代市議会福祉常任委員会

委員長 立川清英 副委員長 萩原麻由美

委員 伊原忠 委員 大竹秀樹

委員 崎村知生 委員 林隆文

委員 森妙子

### 4 議題

八千代市におけるケアマネジャーを取り巻く現状と課題について

(1) ケアマネジャーの処遇改善や働き方改革について

(2) 介護事業所における人材確保や経営上の課題について

(3) その他

### 5 開催趣旨

本懇談会は、関係諸団体との自由な意見交換により、委員会及び委員の専門性の向上を図り、政策提言及び委員会活動の参考にするとともに、市民に開かれた民主的な市議会を実現することを目的に開催するものです。

懇談会の相手方となるやちよケアマネ・ネットワーク（以下「やちよCMN」といいます。）とは、平成26年に続き2回目の開催となるが、その間、我が国にお

いては国民の約4人に1人が65歳以上となり，団塊世代の全てが75歳以上の後期高齢者となる2025年以降は，医療や介護の需要が今後さらに増加することが見込まれている。

このため，国においては2025年を目途に重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう，住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を推進している。

八千代市においても現在，この地域包括ケアシステムの構築に向けて各事業に取り組んでいるところである。

こうした状況の中，質の高いケアマネジメントの実現のために活躍されているやちよCMNの会長，副会長，役員の方々を招き，「八千代市におけるケアマネジャーを取り巻く現状と課題について」をテーマに懇談会を開催した。

## 6 懇談会の経過

懇談会の冒頭，各出席者の自己紹介を行った後，やちよCMNから同団体の活動内容，八千代市におけるケアマネジャーや介護事業所の現状や課題について議題項目ごとに説明がなされ，その後，フリートークによる意見交換を実施した。



初めに，やちよCMNの活動内容として，同団体は，平成11年10月設立以来，八千代市における質の高いケアマネジメントの実現のため，ケアマネジャーの資質向上等を図り，豊かな地域社会の創造に寄与することを目的に介護支援専門員（ケアマネジャー）の職能団体として，研修・情報提供・調査・研究・相互交流等に関する事業を行っているとの説明がなされた。

次に，議題(1)のケアマネジャーの処遇改善や働き方改革について意見交換が行わ

れ、やちよCMNからは、「ケアマネジャー（以下この項目において「CM」といいます。）は、国の補助制度である介護職員処遇改善加算の対象外となっており、同じ職歴であれば介護職員のほうがCMより賃金が高くなる逆転現象が生じていて、今や不人気資格となっている」、「CMの離職を防止するために、近隣市や東京都ではCMへの独自の補助制度（賃金補助や資格取得費用補助等）も創設されており、CMの処遇改善が図れるような補助制度を八千代市も独自に行うことにより、他市への人材流出を防ぐことにもつながる」、「金銭管理や通院の付添い、携帯電話の操作等、CMの本来的業務以外のサポート、いわゆるシャドーワークを利用者から頼まれることが多く、皆さん善意で引き受けてしまうこともあるが、シャドーワークがCMに大きな負担となっている」との発言があった。

これに対して、委員からは、「シャドーワークとCMの本来的業務を明確に区別するために、まずは草の根レベルからCMの本来的業務の周知啓発を市も積極的な姿勢で取り組まなければならない」、「シャドーワークの負担をなくし、CMが本来的業務に集中できるように事務員を雇用するための経費を補助し、せめて事務負担だけでも軽減する必要がある」、「CMの負担となっているシャドーワークの中には無資格者でもサポートできるものがあると思う。地域住民の中には何らかの協力をしたいと考えている方もいることから、そのような潜在的な協力者を地域の中から掘り起こし、地域と連携し支え合うことが大切だ」などの意見があった。

また、議題(2)の介護事業所における人材確保や経営上の課題について意見交換が行われ、やちよCMNからは、「介護事業所には、介護保険に係る仕事が断るほどあるにもかかわらず、CMをはじめ介護職員の人材を確保できないがために、仕事を賄いきれていないのが現状である。逆に、人材を確保していれば、経営上の課題はある程度解決することができる」、「介護職員の年齢層は高く、若い子育て世代の女性職員がほとんどいない。おそらく扶養や社会保険の関係で保育園や幼稚園に預けている間の短時間だけ働くことを希望する方も多く、事業所を運営する上で人員基準が確保できないため、雇用に至らないというのが実状である」との発言があった。

また、委員からは、「利益を追求するような事業形態であれば、物価高騰やエネルギー高騰の中でも価格転嫁へ進んでいくのだろうが、介護事業所は事業収入が介護報酬に限定されるため、物価高騰等のあおりで経常的な負担も増している」との

認識が示された。これに対し、やちよCMNからは、「今後は企業内での活躍の場が求められる産業ケアマネジャーやワークサポートケアマネジャーなどの新たな資格を生かした仕事や介護保険外の自費支援としての仕事等、介護報酬以外での収益を模索している事業所も出てきている」との発言があった。

本会は約1時間30分にわたり行われ、委員長の結びの挨拶により終了した。

## 7 懇談会を終えて

今回の懇談会では、介護の現場で活躍されているケアマネジャーの方々の経験や問題意識に基づいた貴重な意見を聞くことができ、非常に有意義なものであった。本委員会は、今回の懇談内容を通して、政策提言や施策のチェックなど、今後の活動に活かしてまいりたい。